

令和元年度第1回北区民まちづくり会議 摘録

1 日 時 令和元年5月8日（水）午後6時30分～午後8時20分頃

2 会 場 北区役所 大会議室

3 出席者 委員20名／25名

4 次 第

議 題

- (1) 次期北区基本計画策定に向けた議論の進め方
- (2) 部会委員の考え方（案）

5 摘 録

○事務局

ただ今から、令和元年度第1回北区民まちづくり会議を開会する。
開会にあたり、松本北区長から一言挨拶を申し上げる。

○松本区長

本日は、お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。今年度第1回目の会議ということで、新たな委員の皆様にご就任いただいている。また、区役所でも人事異動により新たな体制となっているので、後ほど、ご紹介させていただく。今年度も、どうかよろしくお願ひしたい。

さて、元号が「令和」に改まり、いよいよ新しい時代を迎えた。この「令和」には、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められているようだ。ここ北区でも、今年度から次期北区基本計画の策定に向けてスタートしたところである。人々が心を寄せ合い、地域の絆を大切にするとともに、暮らしの中に文化が息づくまちづくりに取り組む。こうしたことに引き続き、しっかりと取り組んでいきたい。限られた時間の中ではあるが、皆さんのお力をいただきながら、中身の濃い議論を重ねていきたい。本日も、よろしくお願ひ申し上げる。

○事務局

それでは、新年度に入り、新しく委員にご就任いただいている方が4名おられる。本日はこのうち3名の方にご出席いただいているので、簡単に自己紹介をお願ひしたい。

<新たにご就任の委員（3名）から自己紹介>

ありがとうございます。継続して委員をお願ひしている皆様につきましては、お手元の名簿、座席表でのご紹介に代えさせていただく。続いて、4月の人事異動で新たに着任した区職員を紹介させていただく。

<新たに着任した職員から自己紹介>

3月に開催したこの会議において、次期北区基本計画の進め方等々について、様々なご意見を頂戴した。本日は、これを受けた修正案と部会委員の考え方の案について、ご説明させていただく。それでは、進行については、本会議の座長である志藤先生にお願いしたい。志藤先生、よろしく申し上げます。

○志藤座長

お手元の次第に従い、進行させていただく。まず、議題1「次期北区基本計画策定に向けた議論の進め方」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

〔 資料1 次期北区基本計画策定に向けた議論の進め方
参考資料1 平成30年度第2回北区民まちづくり会議(3/7) 摘録 〕により説明

○志藤座長

ありがとうございます。「個人の暮らしに対して、「まち・まちづくりにできることは何か?」」をテーマに、ライフステージごとの課題を想定しながら、4つのテーマを基本に議論を進めていくという説明が事務局からあった。皆さんからのご意見をいただく前に、前回計画からこれまでで進んできていることとして、全18学区での策定を目指している「学区まちづくりビジョン」と、区民の自主的なまちづくりを区役所が支援する「北区民まちづくり提案支援事業」があるかと思う。これから次の計画を作る上で、非常に重要な資料になるので、引き続き、事務局から説明をお願いします。

○事務局

〔 参考資料1 「学区まちづくりビジョン」策定時に寄せられた主な意見
参考資料2 「北区民つながるプログラム」PJと「まちづくり提案支援事業」の活用状況について 〕
により説明

○志藤座長

学区まちづくりビジョンでは、学区の中での課題が出てきている一方で、学区にとって良いことや今後、どうにかしたい内容が織り交ざっている。そして、最終的にこういう学区を作りたいというビジョンとなる。もう一つは、「北区民まちづくり提案支援事業」である。住民自身が企画を練って予算を立てて提案する事業であり、3年間で95件もの事業が地域の中から出てきている。しかし、資料をよく見ると、件数が0件のところもある。子ども達にもっと自然に触れてもらう機会が増えるような取組が必要だということが、この資料からよく見えてくる。このような取組を参考にしながら、この数年間、北区民まちづくり会議の各部会では、いろいろと議論を重ねてきている。子育てや自治会加入に係るワークショップなどを通して議論してきたことをベースに、次の計画を構想出来たらと思う。今後、事務局からご提案いただいた内容で進めていってよいか。また、この会議の委員以外の団体に参加していない人の意見をどのように聞いていくか。様々な課題もあるか

と思うが、事務局からの提案について、自由にご意見やご質問をお願いしたい。

○委員

先ほど、北区基本計画策定のプロセスについて、しっかりご説明いただいた。参考資料2にあるように、4つに分けた「高齢化」「人口減少」「防災」「文化・観光」がほとんどの課題でそれぞれ繋がっている。よって、横串の刺し方は非常に大切である。

京都のまちづくりの歴史を振り返ると、お茶や着物、工芸品など、最先端の文化・産業があり、日本や世界においてトップクラスの魅力をそれぞれの人が価値として認めていた。移動が難しいと言われていた江戸時代においても、全国から色々な人が新しく流入した。それにより、新しい価値がどんどん生まれ、新陳代謝が起こり、それが伝統となる「まちづくり」をつないできた歴史がある。北区においても、北区の価値を横串に繋ぎながら、きちんと理解してもらえる新しい人にどんどん入ってもらい、新しい価値が生まれるようなまちづくりを進めていければ。例えば、町家や空き家の価値を広げ、そこに魅力を感じる新しい人が入り、その地域に加わるようなプログラム等である。受ける側としては新住民を受け入れ、どうコミュニティを作っていくか。よいバランスが生まれると「まちづくり」はしっかりと繋がる。部会での議論を重ねていく中で、この横串が見つかると思うので、一緒に議論していきたいと思う。

○委員

部会の「高齢化」「人口減少」「防災」はどちらかといえばネガティブなイメージだが、「文化・観光」はポジティブなイメージ。地域の皆さんに議論やイベント、提案支援事業を勧めた場合、「文化・観光」の方が関わりやすいのではないかと感じていた。そして、今回、事務局において、「文化・観光」は資源として、課題の「高齢化」「人口減少」「防災」に関係させていくという整理をされたので、よい進め方だと思った。北区役所では、若手職員が観光冊子「裏を往く～あなたの知らない北区～」を発行し、京都新聞にもその記事が掲載されていた。北区に住む人でも知らないようなことが掲載されている。北区のことをよく知っている人も知らない人も、もっと知る場や機会などがあれば、より皆さんが関心を持ってくれるのではないか。「知る」ということからスタートし、「知る」からこそ「触れる」「関わる」という方向に進んでいくことができればと思った。

○委員

「少子高齢化」はなかなか避けられない課題。しかし、京都には14～15万人の学生という大きな資産がある。これまでずっと議論していても、学生の社会参加がなかなかみられなかった印象がある。彼らに社会参加してもらうことにより、明るい兆しが見えてくるような気がしてならない。京都経済同友会において、大学生や留学生に関する提言書を出したが、なかなか施策が出てこない。もっと学生の力を活用していければ。大学にも協力していただくことになるが、この1～2年で、議論するだけでなく、もう一步踏み込んで、学生が社会参加できる仕組みを作っていただきたい。

○委員

私はそらいろチルドレンとして約10年、小中高生に関わる居場所づくりの活動を行っている。この2月には、京都はぐくみ憲章実践推進者として賞をいただいた。改めて市に

認めてもらったという誇らしい気持ちである。北区民つながるプログラムにおいても、大学生も含めて、貢献した活動や団体、人を認める仕組みがあれば、北区に住んで良かった、事業をして良かったというようなポジティブな気持ちになれるのではないかと。

○志藤座長

大学生だけでなく、小中高生においても良い取組を顕彰する制度があれば、子ども達の励みになるのでは。

○委員

P T Aにおいて色々な行事に取り組んでいるが、親が特に興味を持っているのは「防犯」である。7月に予定している北警察署による講義の事前打合せで、2年ほど前には、金閣寺のすぐ近くで、麻薬密売のアジトが検挙されたという話を聞いた。一見、北区は安全そうに見えるが、大学が多いということもあり、ターゲットにされていると伺った。小学生のうちには安全でも、中・高生の特にひきこもりの子どもが狙われるという傾向を聞き、非常に恐ろしかった。このような防犯の取組も大切である。

○委員

基本計画を作る目的は、北区に住む人に「住んで良かった」「北区は素晴らしい地域だ」と皆さんに実感してもらうことだと思っている。つまり、北区を支えている学区や町内会が素晴らしいということにもつながる。紫竹学区では、志藤先生ご指導の下、数年前にまちづくりビジョンを策定した。しかし、「こうしたい」「ああしたい」という新たな意見が出てきている。各学区で策定したまちづくりビジョンは、何年かに1回は改訂が必要だと思う。地域において活動できる人は、精神的、経済的に余裕があり、家庭が円満で健康な人だと思う。ご自身のことで精一杯、忙しいという人はなかなか出てこれない。埋もれている人にどう関わってもらおうかについても、ぜひ知恵をいただければ有難い。

○委員

北区は京都市の中でも高齢化率が高い。特に、私の住む中川学区は65歳以上の人が多い。これを踏まえてどう暮らしていくかを考えることが大切である。本日、すこやか学級を開催したが、70歳位の参加者が25人であった。志藤先生にご協力いただき、大谷大の学生に来てもらった。事業を継続的に実施していくためには、地域の担い手だけでは立ち行かない。学生などの様々な人にお手伝いいただくことが必要である。

去年の災害時は、長いところで10日間停電している地域があった。交通の便が良ければ買い物ができるが、道は途絶され、電気は通らず、食べ物や水も使えない。このような状況が北区3学区のみでなく上賀茂学区や終野学区などでも現実に起こっていたということを皆さんにも知っていただきたい。そして、現状を踏まえながらどう対応するかが大切である。私自身も活動を始めたときは10年程前で、まだまだ体も動いていたが、今は65歳となった。どうやって若い世代に関わってもらおうか。そして、漏れてしまう人、例えば、障害を持つ人にどう関わってもらおうかを考えることが大切である。障害といっても、身体障害や知的障害など様々である。また、身体障害の中でも、視覚障害、聴覚障害などがあり、重度障害など障害の程度も様々である。こうした人たちも一緒にどう暮らしていくか、どうサポートしていくか。人口減少についても、子どもが少なくなっている現状を

まず知り、どう対応していくかを考えていくことが大切である。中川学区は、人が少なく、若者が住んでいない。高齢者が同じような年代の人を見守る地域である。これをずっと続けていくことは難しい。先日、地域包括支援センターや施設、大学等による実行委員会を開催した。これが、福祉部会、防災部会にまで広がり、高齢者や障害を持つ人も含めて、地域全体を考える取組となった。地域全体で役割分担をするのは非常に大切である。地域には様々な人が一緒に住んでいることを理解しながら考えていくことが大切である。障害のある人たちにも触れていただけたらと思う。

○委員

少し厳しい話をするかもしれないが、このような議論を続けていることが果たして成果に結びついているのかと疑問に思っている。議論をするからには、数値目標を掲げて取組に反映され、良くなっていくのが望ましい。そして、目標に近づけていくための努力を皆でやっていく必要がある。しかし、現在の後期北区基本計画「つながるプログラム」（平成28年3年策定）において、人口11.9万人を12万人するという目標を1つ目に掲げて、色々な取組をしてきたと思うが、結果としては、減少している。となると、これまで取り組んできたことが成果として挙がっているのかと疑問に思う。実効性のある取組をしていかなければいけないと思う。今年、楽只小学校が閉校したが、地域コミュニティがうまく回っているのかも疑問である。また、元町小学校が閉校するかどうかという話も上がっている。今後、どう明るい未来をつくっていくかをしっかりと議論していきたい。

○志藤座長

人口については、そもそも厳しい目標設定であったかもしれない。人口減少については、なかなか北区だけで解決するのは難しい。厳しい状態ではあるが、少しでも良くするための努力や取組は必要である。何かよい知恵があればと思う。

○委員

部会で議論する際、非常に重要になってくるのは「キーワード」である。「文化・観光部会」において、文化を「資源」としてしまうと、「文化財」「文化遺跡」などのような「物」になってしまうのではないか。私の中では、どちらかというところ、「文化」と「生活」は、ほとんど等しいと思っている。防災であれば「防災文化」というように、経済活動である観光とは分けて議論ができたらと思う。議論をする前に、キーワードについての共通認識ができるように、話し合う時間が必要ではないか。また、北区民まちづくり提案支援事業の活用状況において、「つながるプログラム」に掲げる大学等の取組が0件であった。北区は4大学あるすばらしい区なので、4つのテーマの中にも入れ込んで、どんどん活性化していけるのではないか。

○委員

質問だが、「資料1」の2ページ「個人の課題を、まちとのつながりで解決できる！」の「まち」とは何をさしているのか。

○事務局

「まち」とは、地域での活動を含めた「まちづくり」のことを指している。自治会での

活動だけでなく、提案支援事業のような個人での活動も含まれるという理解である。

○委員

個別の事象をどう解決するかではなく、「北区に住んで良かった」と皆で共有できるように、どんなことを進めていけば、どういう良さがあるのかを、個人や学区、町内などで共有できればよいのではと思う。「防犯」や「福祉」などについてもそうである。今は、警察ですら地域コミュニティに委ねるという現状がある。一方で、地域コミュニティの担い手はどんどん少なくなっている。新しい価値を持ってきてくれる人とうまくできるようにしないと、いつまでたっても現状からは抜け出せない。京都は学区ごとに特徴があり、進め方や人間関係の作り方も異なる。町内や学区、小学校などと連携し、町内会加入率99.9%の学区もあれば、学区の役員だけ一生懸命に動いて地域の人からは何をやっているか分からない学区もある。具体的な取組を進めていくためには、学区のパワーが必要である。この動きをサポートできるような計画を期待したい。

○委員

「個人の暮らしに対して「まち・まちづくりにできることは何か？」という問いかけがとても良い。先ほども発言があったが、上から言うよりも、一人一人に問いかける方が良い。私も大將軍学区の団体に活動をしているが、「こうしてください」「ああしてください」では、伝わりにくい。北区でよい機運があるので、地域の皆さんに分かってもらい、浸透できるような取組ができればと思う。

○委員

今回、一番ピンときたのは「自分ごととして」という言葉である。自分ごととして捉えずに、他のところで議論をしても、実効性がなく、机上の空論になってしまう。個人個人で色々と不満はあると思うが、皆が一緒になって取り組むことにより、世の中が動き、社会が変わることがあるということが実感できないと、議論だけで終わってしまう。一番、実効性がある目に見える取組は、やはり「まちづくり提案支援事業」だと思っている。区民が自分のこととして考え、色々なところで実行し、少しずつ地域を良くしている。北区は非常に採択件数が多い。このような力をうまく汲み上げて、ボトムアップできるような仕組みができればと感じている。

○委員

私は21歳のときに、京都が嫌で20年以上外へ出ていた。その後、気づいたのは、どこへ行っても出身が京都だということ「ええなあ」と言われるということ。京都に住む人は、意外と京都の良さを理解していないのかもしれない。今は金閣寺の近くに住んでいるが、ペラペラの薄い着物を着て喜んでいるカップルを見かける。民泊を経営しているのは、恐らく京都人ではない。京都の人であれば、地域の人に気を遣って経営できないはずである。北野天満宮「のみの市」で売られている古着の着物は、海外では数万円の価値で出回っていると聞く。海外の人は、古着の着物をナイトガウンやソファのクッションにして、違う価値を見出だしている。京都の人が京都の良さを理解できていないと、他の人に食べ物にされてしまうかもしれない。

○志藤座長

先ほど意見があったが、価値の再発見、再確認の手立ての一つが「外の人はどう見ているか」となるのではないか。また、数値目標に関連してであるが、18学区において、学区まちづくりビジョンを策定できた学区と、できていない学区がある。作ることだけがよいのではなく、どう作っていくのかが大切であり、できなかったところは、今後、どう考えていくかが大切である。学区単位なのか、少し幅広い評価軸にするかなども併せて議論できれば。一つの考えの軸として、「外からの視点」というのは非常に重要である。

○委員

私も25歳頃に京都が嫌で外へ出た人間である。しかし、3年前に京都に戻ってきて、京都のことを学んでいるところである。北山3学区の具体的な課題については、この会議で初めて知った。私もそうだが、私の周りの地元の人や他府県出身の人も恐らく知らないと思う。まずは、観光・文化の良いところも課題も含めて、いかに多くの人に知ってもらうかが鍵であるように思う。

○委員

私が社会福祉協議会会長のときに、「福祉活動は文化だ」と言っていた人がいたのを思い出した。活動すること自体が「文化」だと思えば、様々な部分でも活用できるのではないかと思う。そのときに「文化」とは素晴らしい言葉だなと衝撃を受けた。人口減少であってもどのような内容であっても、真剣に考えていくことは、ひいては文化となるのではないか。この文化を横軸の一つとして考えていければ。しかし、日々の活動の中で、「まち」と「個人」は、なかなか難しいと思っている。「個人」と「個人」の繋がりの中から何か生まれるのがスタートであり、一人一人の活動やつながりが町をつくっていくという考え方は重要な視点かと思う。それが、ひいては「文化」になるのではないか。私自身、取り組んでいることが「文化」なのだと楽しみながら活動を続けていきたい。

○志藤座長

文化には、消費と生産の側面がある。住んでいる我々は、文化を生産していく側の人間でもある。消費するだけでなく、いかに生産していけるかが、まちづくりにおいて重要な視点だと思う。

それでは、続いて、議題2「部会委員の考え方（案）」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

（ 資料2 部会委員の考え方（案）
参考資料4 部会構成イメージ ） により説明

○委員

私はそらいろチルドレンにおいて、小中高生に関わる居場所づくりの活動を行っているが、今年度から乳幼児や高校生以上についても対象にしていくことを考えている。部会委員の割り振りはどのような意図でしていただいているのかなと思ひ質問をさせていただいた。「防災」とは全く関係がないわけではないが、どちらかというと専門外である。

○事務局

基本的に、日ごろの活動でのご意見をいただくことを念頭に割り振らせていただいている。防災については、小さなお子さんや障害をお持ちのお子さんへの配慮という観点からご意見をいただければ有難い。

○委員

私は、「文化・観光部会」に割り振っていただいているが、他のところで「防災街コン」や「トレパトウォーク」などの取組をしている。また「北区じかん」の編集では、学生の防災や防犯についても関わらせてもらったので、気になるところである。他の部会への参加は可能か。皆さんも、主軸を1つの部会に置きつつ、他の部会への出入りが自由となれば、最後の横軸を繋げるところでもうまく機能するのではないか。

○志藤座長

部会の出入りは自由にできるようにしてもらえたらどうか。学生もこっちの部会に参加したいなどもあると思う。

○事務局

柔軟に対応させていただく。

○委員

人口減少部会では、小学校が統廃合された楽只学区や、現在、検討中の元町学区が入っている。人口減少に関して、もはや楽只、雲ヶ畑学区は諦めているのではないか。

○委員

先ほど、人口減少に関して諦めているという悲観的なご意見があったが、少なくとも北区民まちづくり会議委員はまだ諦めず、アイデアが豊富にあると期待している。現実を受け止めた上で積極的に議論を進めていければと思う。「文化」は、非常にレベルの高いものから日々の「暮らしの文化」まで幅広い。そして、「暮らしの文化」が一番大切である。観光においては、上手にわかりやすく伝えることができなければ伝わりにくい。しかし、文化と観光をうまく語る人はまだ少ないと感じている。一度でもよいので、語る方をお招きしてレクチャーできる機会を持てればよいのではないか。

○志藤座長

文化はどのように伝えるかで観光にも繋がるし、伝え方をうまく議論しないと残念なことになる。現行の計画の中でも文化をとり上げているが、残された問題でもある。先ほどご意見もあったように、指揮者の方を招いてレクチャーするのもよいのでは。色々な議論を組み合わせていく第2ステップも用意されているので、皆さんにはぜひご参加いただければと思う。議論の進め方と委員構成についての事務局からの提案について、原案どおりでよろしいか。よろしければ、拍手でお願いしたい。

(一同、拍手)

その他、何かあればお願いしたい。

○委員

自治会としては、地元の各種団体があってこそ、現実に日々の活動ができる。「まち」と人との繋がり最前線で活動している各種団体や町内会長をフォローする体制についても議論して欲しいと思った

○志藤座長

それでは本日の議題がすべて終了したので、事務局にお返しする。

○事務局

志藤先生、ありがとうございました。また、委員の皆様、積極的な議論をありがとうございました。来月からいよいよ次期基本計画の策定に向けた議論を進めていくこととなる。引き続き、皆さまのお力添えをよろしくお願いしたい。

先ほども少しお話があったが、この会議にご参画いただいている皆さまは、北区未来につながる区民会議委員にもご就任いただいている。会議は、5月13日（月）午前10時からルビノ堀川で開催するのでご出席をお願いしたい。本日は、長時間にわたりありがとうございました。